

在宅医療における 栄養ケアの取り組み

医療法人協和会 在宅支援センター
協和訪問看護ステーション

畑中 恵子

略歴

- ・ 国立循環器病研究センター CCU 4年間勤務
- ・ 1999年から訪問看護 支援専門員として活動
- ・ 現在、医療法人協和会 在宅支援センター
協和訪問看護ステーション サテライト管理業務
(府訪問看護ST協会 教育ステーション)

現在滋賀医科大学大学院医学系研究科修士課程に在籍

滋賀医科大学看護師特定行為研修センター 4区分7行為 2018年度修了

◎栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 ◎ろう孔管連

◎創傷管理関連◎呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連



協和会 施設紹介

協和会	
事業所	6病院及び1指定管理病院、1診療所 4介護老人保健施設 在宅事業部（兵庫、大阪）
職員数	約3100名
病床数	2521床（うち老健ベッド数495床）

病院



協和会病院



協立温泉病院



千里中央病院



協立病院



市立川西病院（指定管理）



協和マリナホスヒタル



第二協立病院

在宅支援センター

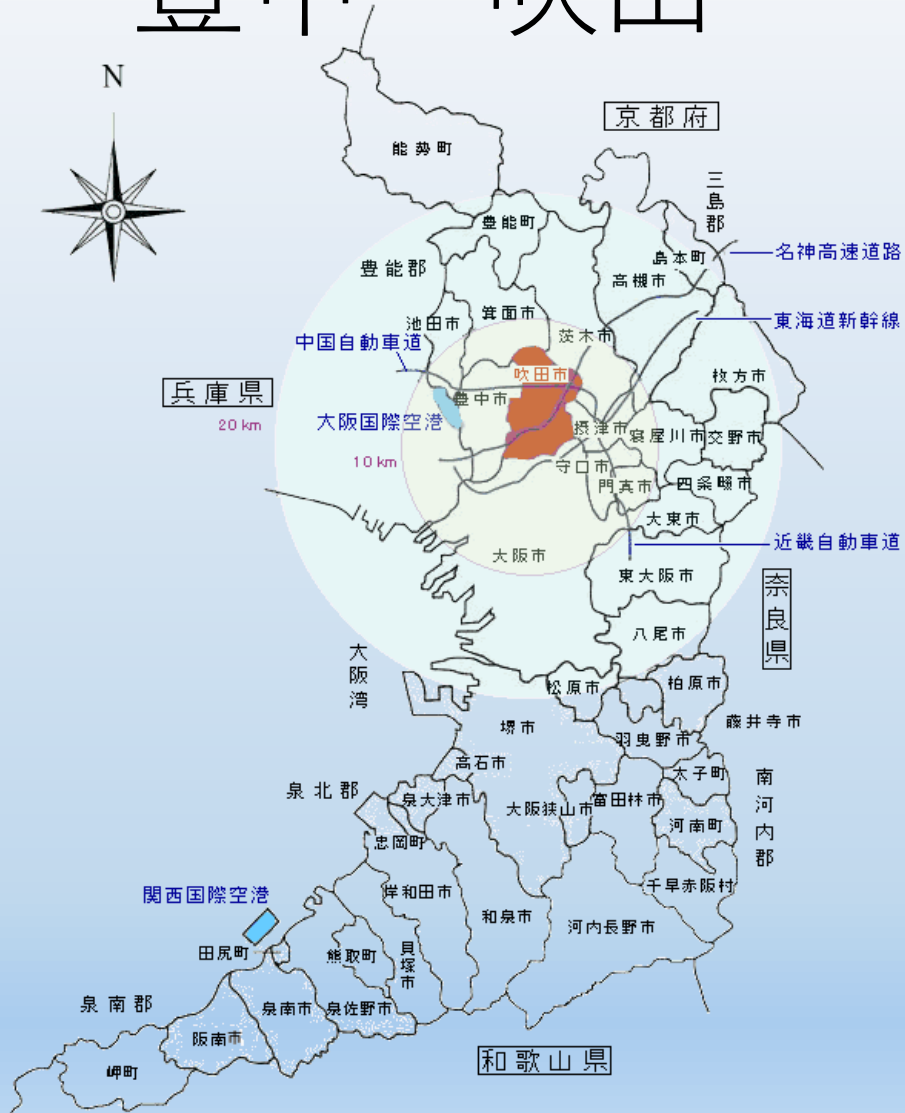
- ▶ 協立訪問看護ステーション
- ▶ 協立ヘルパーステーション
- ▶ 協立ケアプランセンター
- ▶ 川西地域包括支援センター
- ▶ スミスヘルパーステーション
- ▶ スミスケアプランセンター
- ▶ 多田地域包括支援センター
- ▶ 協和マリナ訪問看護ステーション
- ▶ マリナケアプランセンター
- ▶ 西宮ヘルプステーション

- ▶ 協和訪問看護ステーション
- ▶ 協和ヘルパーステーション
- ▶ 協和ケアプランセンター
- ▶ 吹田市岸部地域包括支援センター
- ▶ 千里中央訪問看護ステーション
- ▶ 千里中央ケアプランセンター

介護施設

- ▶ ウェルハウス川西
- ▶ ウェルハウス協和
- ▶ ウェルハウス清和台
- ▶ ウェルハウス西宮
- ▶ セントライフケア
- ▶ 聖徒クリニック

豊中・吹田



高齢化率 30%
しかし町単位で見ると
11.6%から37.1%

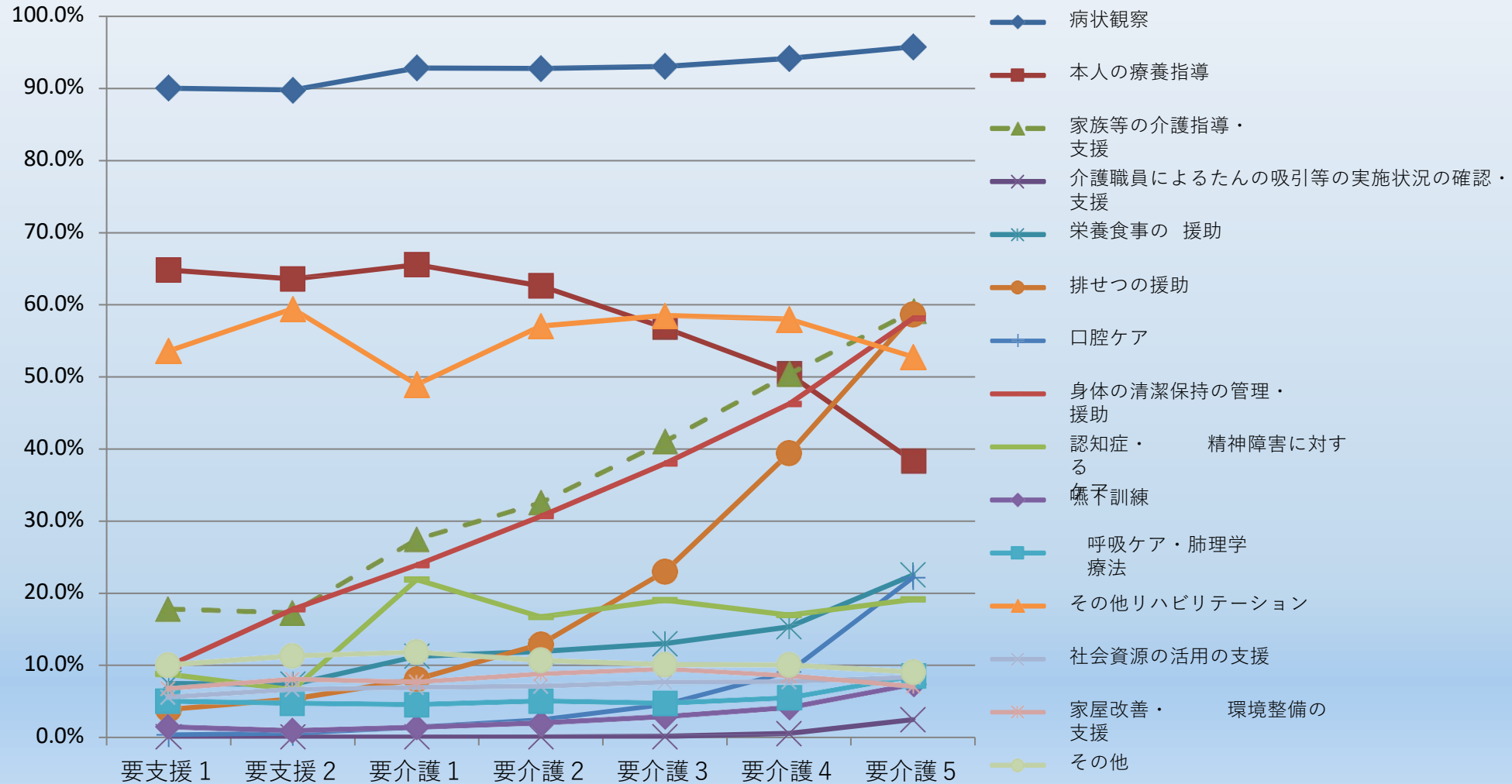
(昭和45年ごろニュータウン開発で一挙に
団塊世代が増えた。)

訪問看護における 栄養に関するケアの現状

要介護度別の訪問看護の実施状況①（看護内容）

○訪問看護の看護内容は、介護度が高くなるにつれ「家族等の介護支援」「身体の清潔保持の管理援助」「排泄の援助」等の実施割合が高くなっている。

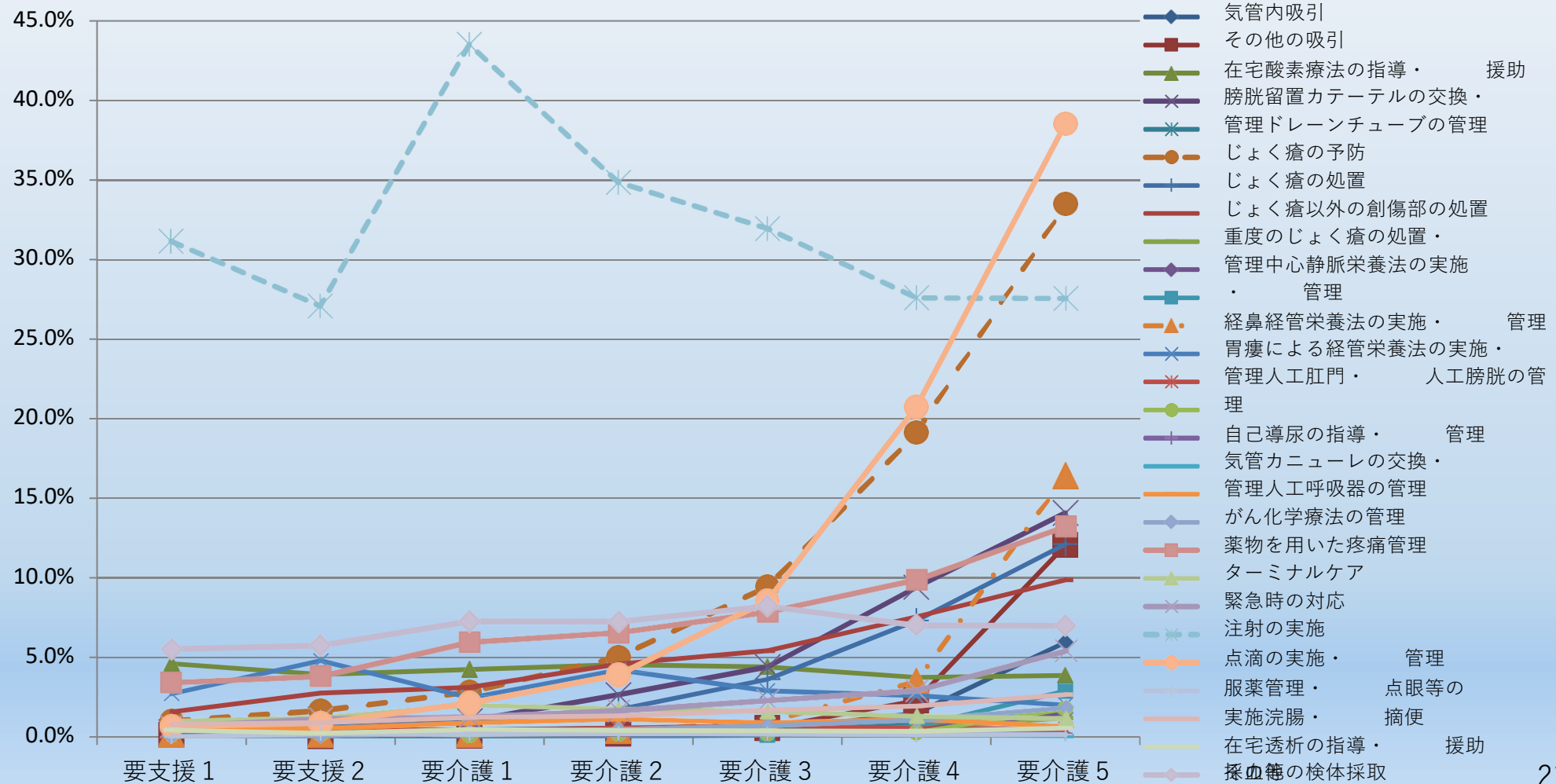
■ 訪問看護の提供内容（1ヶ月）（複数回答）



要介護度別の訪問看護の実施状況②（医療処置に係る看護内容）

○訪問看護の医療処置にかかる看護内容は、介護度が高くなるにつれ「浣腸摘便」「じょく瘡の予防」「胃瘻の管理」等の実施割合が高くなっている。

■ 訪問看護の医療処置にかかる看護内容（1ヶ月）（複数回答）



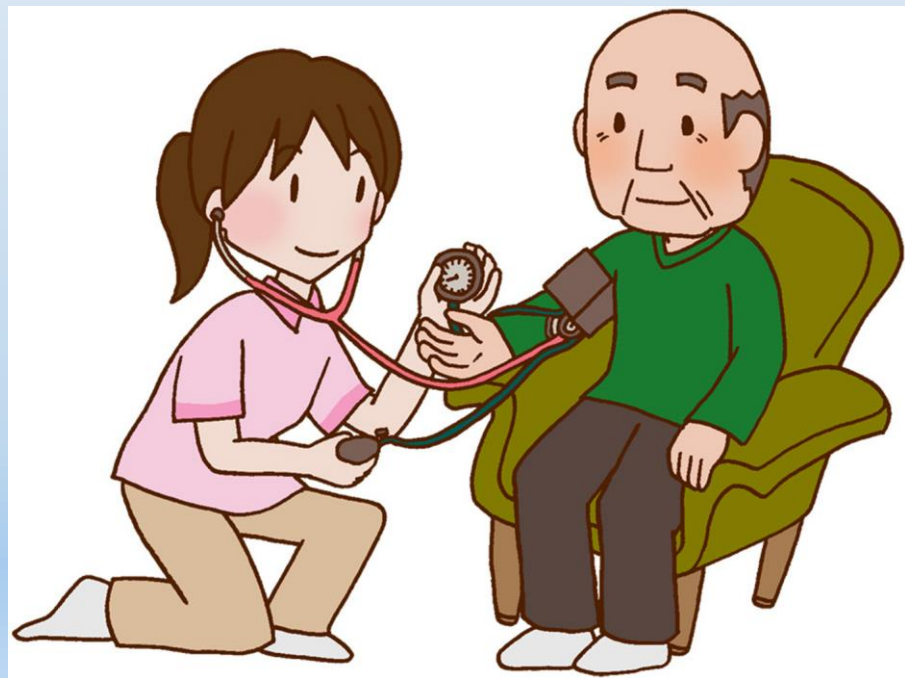
出典：介護サービス施設・
吸入事業所調査（平成28年9月）

訪問看護の実施状況からみえること

要介護 4・5

中心静脈栄養、胃瘻に関するケアが中心

要支援、要介護 1・2 では栄養での介入の割合は低い



問題解決志向型



- ・フレイル、サルコペニアに対する意識が低い
- ・栄養アセスメントの方法が周知できていない
- ・栄養に関する介入ができていないわけでは不是が・・・
介入することで改善が見込める状態の判断は・・・



栄養に関する介入の根拠が明確になっていない
介入後の評価がしにくい

栄養に関するケアの取り組み

今まで行ってきたこと

- ・相談のあったケースで栄養アセスメント
MNA簡易栄養評価表、ハリスベネディクト式の活用
独自の聞き取り内容のシートで聞き取り

在宅初回訪問時

訪問時の体重や計測できるが過去の情報がわかりにくい

食事量、内容に関しても感覚の個人差があり、簡単な聞き取りでは把握しにくい

過去（調子が良かった時、現在の状況になる前）と身体状況や食事量・内容、環境がどう変わったかの聞き取りが重要

栄養ケア

栄養アセスメント

看護計画、介入の明確化、臨床推論

- ・ 介入により改善が図れるか
- ・ 介入の方法
- ・ 地域包括ケア・多職種連携（地域の栄養ケアステーション）、セラピストとの協働
- ・ 評価



栄養ケア

今後の栄養ケアに関する取り組みについて①

- ・ **初回、定期的に栄養アセスメントスクリーニングができる**
栄養アセスメントに関して周知

- ・ アセスメントの方法
- ・ サルコペニアの診断基準
- ・ ポリファーマシー
- ・ 地域包括ケアの活用
 - ・ 栄養ケアステーションとの連携
(実際まだケアステーションの数も少ないのが現状)

栄養アセスメントアプリの活用

今後の栄養ケアに関する取り組みについて②

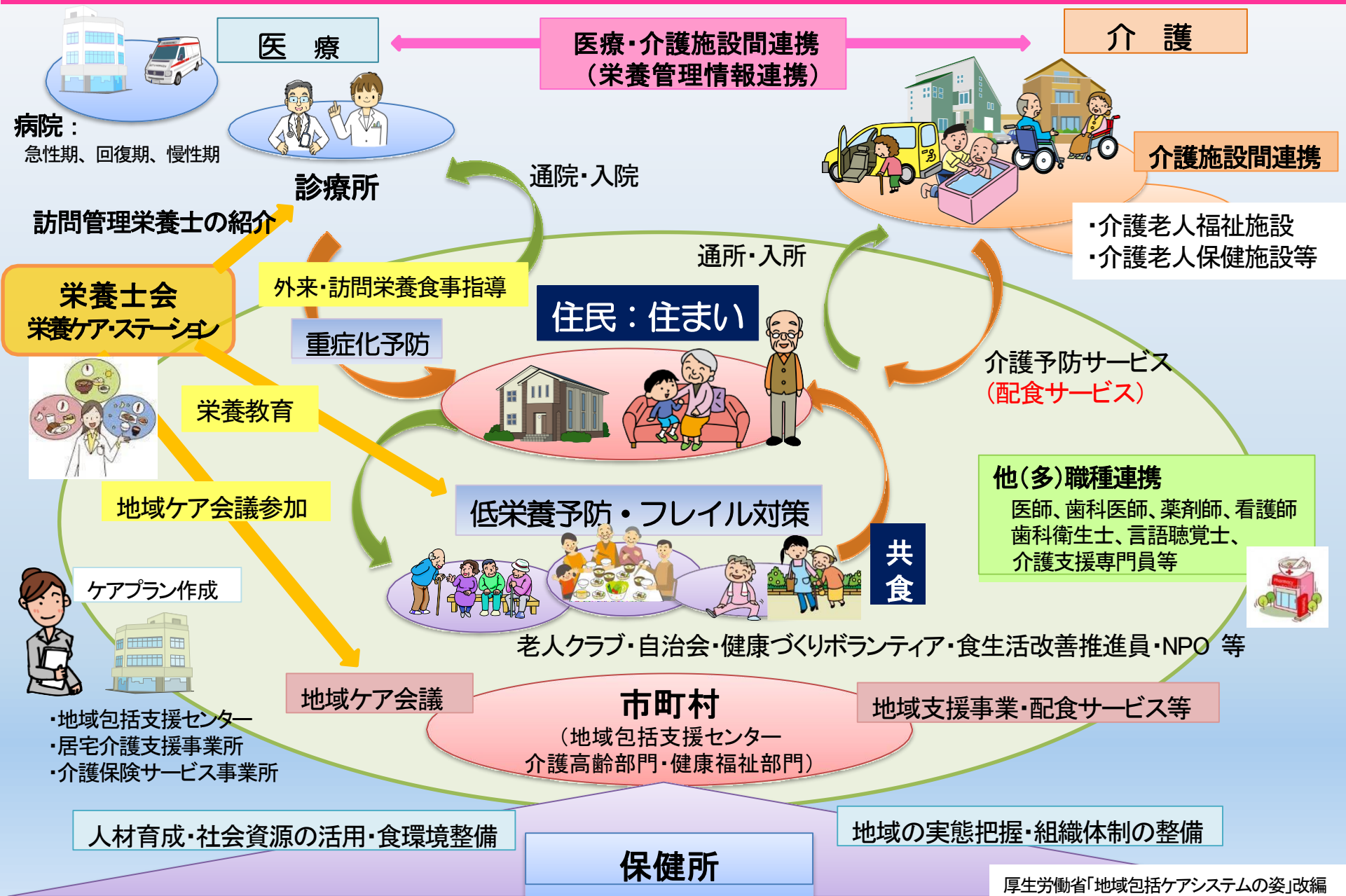
- ・ **地域包括ケアの活用、多職種連携**

- ・ 栄養ケアステーションとの連携

（実際まだケアステーションの数も少ないのが現状）

- ・ 言語療法士との連携

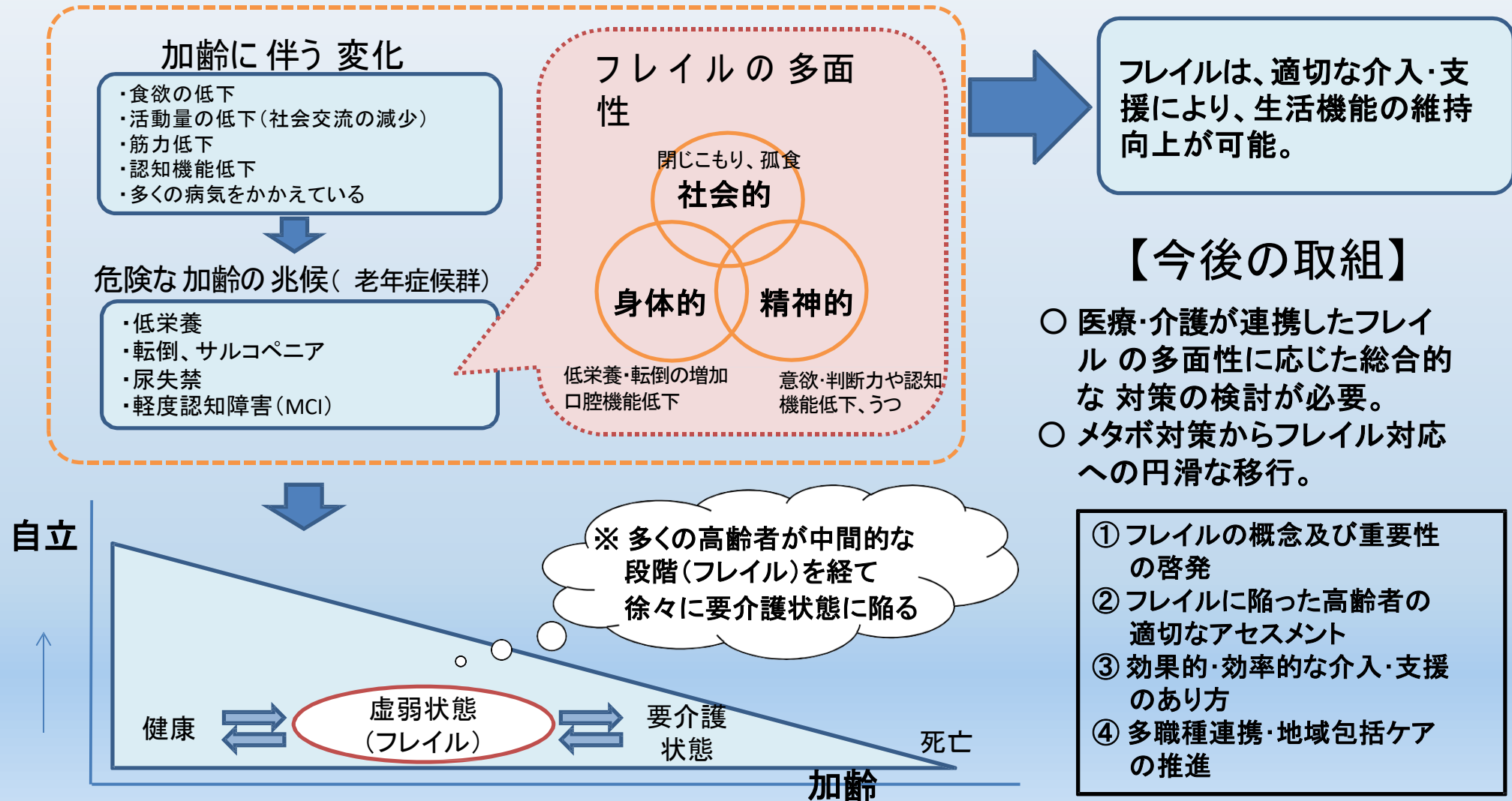
～地域住民（高齢者）の自立した生活に向けた取り組み～



○高齡期の疾病予防・介護予防等の推進

・高齡者の虚弱（「フレイル」）に対する総合対策

「フレイル」とは 加齢とともに、心身の活力（例えば筋力や認知機能等）が低下し、生活機能障害、要介護状態、そして死亡などの危険性が高くなった状態。



訪問看護に求められるもの

- ① フレイルの概念及び重要性 の啓発
- ② フレイルに陥った高齢者の 適切なアセスメント
- ③ 効果的・効率的な介入・支援 のあり方
- ④ 多職種連携・地域包括ケア の推進

- ・ 介護度が上がることを抑える（状態の維持）
- ・ 再入院率を下げる
- ・ 入院期間が長期になることを抑える

栄養アセスメント
から栄養ケアに